

●まちのできごと

11/19 みんなで食べてください

名森野球スポーツ少年団から、児童たちが田植えから収穫まで行ったもち米90kgが寄贈されました。

寄贈されたもち米は、各こども園やあすわ苑のおやつなどで配られる予定です。

代表で目録を贈呈した辻海史さんは「一生懸命田植えをしました。美味しく食べてもらいたいです。練習も一生懸命頑張っています」と話してくれました。



▲みんなで協力して田植え・収穫したもち米

スペシャルコーチからの指導でレベルアップ

11月23日（土）「ぎふしん中日少年野球教室withドラゴンズ」（中日新聞社・岐阜信用金庫共催）が総合運動公園で開催され、登龍中・東安中の野球部員が元監督の高木守道さんと元投手の小松辰雄さんからプロ経験者の指導を受けました。

高木さんは「みんな良い身体をしているが、中学生全体がパワーアップしています。どんなスポーツでも脚が重要です。今日からは脚を強くする意識を持って練習に取り組んでください」と話されました。

小松さんは「将来、中日ドラゴンズに入団してチームをもっと強くしてやる気持ちでこれからも頑張ってください」と話されました。

また、11月30日（土）には岐阜県のA級選抜強化リーグに所属し、甲子園や全国大会の出場経験者が多く在籍している岐阜信用金庫の野球部による少年野球教室が行われ、登龍中野球部が指導を受けました。



▲高木守道さんからバッティング指導



▲小松辰雄さんから投球指導



▲スローイングのコツを教わる

12/3 原爆とは、原爆孤児とは

名森小学校6年生が社会の授業の一環として、被爆者の証言を後世に伝える「被爆体験伝承者」の一人の西村純幸さんから原爆の悲惨さについて学びました。

11歳で原爆により両親や兄弟を亡くし、自身も被爆して原爆孤児となった川本省三さんの証言を聞いた児童は「原爆の被害はずっと続いていることが分かりました。川本さんも普通の人生が送れたはずなのに、孤児となったため盗みをしたり、被爆を理由に結婚できなかつたりして戦争は本当に駄目だと改めて分かりました」と話してくれました。



▲被爆者の体験を伝える西村純幸さん